

教授 長谷川 清

専門領域 中国民族文化史、文化人類学

研究内容

中国の諸民族の社会と文化について、現地調査で得た資料に基づき、文化人類学的な視点から比較研究を行っている。多民族国家としての中国は、多様性に富むエスニック集団から構成されており、それぞれの民族文化は過去からの伝統を継承しつつも、絶えず生成と変容の過程のなかにある。この点を解き明かすことは、中国文化のダイナミクスを理解することにもつながら、重要な研究テーマである。

准教授 福田 倫子

専門領域 日本語教育 第二言語習得

研究内容

日本語学習者の第二言語習得を研究分野とする。研究の切り口としては認知心理学の観点を取り入れ、主に聴解と認知能力との関係について明らかにする研究を行っている。言語運用能力の評価や動機付けなどのトピックも扱う。

教授 リチャード・ローガン

専門領域 Comparative culture

研究内容

In the area of American and British culture. I'd like to provide research guidance in issues of mass media and political correctness. Students may wish to research and write a thesis in English in an area of mass media, propaganda, political correctness, human rights, ethnic studies, popular culture, or film.

准教授 鷲麗美知 ゴラナ

専門領域 Applied linguistics (L2 Vocabulary acquisition)

研究内容

My research interests include second language vocabulary acquisition, phraseology, vocabulary teaching methodology and learning strategies. I am particularly interested in acquisition of multi-word expressions (idioms, collocations, phrasal verbs, speech routines, etc.) and applications of cognitive linguistics to second language learning and teaching.

■言語文化専攻修士課程授業科目の概要

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
言語学特論		2017年度非開講
言語文化特論	寺澤 浩樹	日本近代文芸研究、特にその文芸学的研究の実践事例の一つとして、著者自身による著作を用いた講義をおこなう。 研究対象は、1910(明治43)年に創刊され、1923(大正12)年に廃刊となった、同人誌『白樺』の発行期間を中心とする、武者小路実篤の作品、およびその作家活動である。 研究の動機や研究方法の追究および公開などに関する、体験や率直な感想を交えることで、広く言語文化の研究に進む学生諸君に資する授業としたい。
比較文化特論	長谷川 清	中国大陸は、東アジア地域のなかでも多様性に富むエスニック集団が居住分布するという特徴を有している。講義では、多民族国家の成立過程において、これらの諸集団が「民族」として再編される過程で進行した、民族文化の変容や再編、創出のダイナミクスについて比較検討する。比較文化論の研究対象は多様であるが、狭い意味での文化（ハイ・カルチャー）ばかりでなく、一般の人びとの生活様式や習俗、価値観、美意識などの比較も視野に入れる。
社会言語学特論	亀田 裕見	言語は社会の中でどのような機能を担っているのだろうか。逆に言語は社会の中でどのような影響を受けているのだろうか。また、社会が言語をどのように扱っているのだろうか。そもそも「社会」が意味している内容は多岐にわたる。いわゆるsocietyという抽象的なレベル、国家・教育といった制度的な側面、社会が内包している様々な階層・場面・人間関係・心理など、様々な角度から言語現象や言語行動を、主に日本語と日本語諸方言を材料に具体的事例をもとに考えていく。
心理言語学特論	福田 倫子	第二言語習得に関わる現象について認知心理学的な観点からの理解を目的とする。 第二言語習得や母語獲得の研究には様々な切り口があるが、言語習得時あるいは言語理解・産出時における学習者の心的な行動や機能を理解することは、言語学習および言語教育の両面に貢献すると考えられる。 本授業では論文や参考文献を読み、当該分野の研究成果を共有し、検討する。 履修者の興味によっては、少人数グループでの調査・実験等も行う。
コミュニケーション特論	川口 良	コミュニケーションとは、人間同士の意思の交流を意味するが、そのコミュニケーションの手段として、言語は大きな役割を果たす。言語が文法規則によって記述される静的な側面を持つことは否定できないが、人が接触する際のコミュニケーション・ツールとして捉えれば、言語が変化を繰り返す動態であることは、自然な現象と言える。本講義では、現代日本語の変わりゆく諸層について検討することによって、言葉は「乱れる」のではなく、「変化する」ものであることを確認する。
言語情報処理特論	岸田 直子 樋口 泰裕	言語文化研究における、創造的なコンピュータ利用の可能性について考察する。さらに、各受講者の研究上の必要に応じたコンピュータ利用の方法を探る。具体的には、コンピュータを活用した効率的な論文作成の方法、言語資料分析に対するコンピュータの利用、漢字と文化、中国文化の中の情報処理の歴史等について、論ずる。

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
文学特論	樋口 泰裕 森本 奈理 大島 文志	日本文学、英米文学、中国文学といった担当教員それぞれの専門領域から、詩や小説などのいわゆる文学的テキストを取り上げて講読し、異なる歴史、文化を背景にした文学研究の実践的な視点、方法などを学ぶ。
言語文化実地研究	－	本学の海外研修プログラムに参加した場合や、本研究科と協定を結ぶ外国の大学院で学修した場合に、その成果を単位認定する。
地域言語文化史研究 (日本語の歴史)	宮武 利江	日本語がたどってきたさまざまな変化について、現在手にすることのできる文献資料に残された手がかりをもとに、主要な研究論文を参照しつつ考察する。今年度は、万葉仮名と上代特殊仮名遣、藤原定家の文字づかいと定家仮名遣、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いといった書記史上の重要なトピックスをいくつか取りあげて、演習形式も取り入れながら論じる予定である。
地域言語文化論特論Ⅰ (日本語文化)	鈴木 健司	本年度は、春学期の「地域言語文化論特論Ⅰ」と秋学期の「地域言語文化論演習Ⅰ」を融合させ、宮沢賢治の散文作品と韻文作品を採り上げその差異を探っていく。春学期には宮沢賢治の詩『春と修羅』第一集を読む。宮沢賢治の詩的言語は、難解といわれるが、詩の構造を把握することにより、詩語の喚起するイメージや意味内容を分析的に解釈していきたい。
地域言語文化論演習Ⅰ (日本語文化)	鈴木 健司	本年度は、春学期の「地域言語文化論特論Ⅰ」と秋学期の「地域言語文化論演習Ⅰ」を融合させ、宮沢賢治の散文作品と韻文作品を採り上げその差異を探っていく。秋学期には宮沢賢治の童話『銀河鉄道の夜』を読む。賢治の散文的言語は、美しく分かりやすいといわれるが、そのテキストの成り立ちは複雑を極めており、テキスト段階からの読み取りを訓練し、散文世界の成り立ちを追究したい。
地域言語文化論特論Ⅱ (英米語圏文化)	芦田川 祐子	19世紀の英国で盛んに書かれるようになった創作フェアリー・テイル(おとぎ話)の代表的作品を読みながら、おとぎ話が文化のありようとのどのように関わっているかを考えていく。おとぎ話は昔話や民話とも深く関連し、多くの地域で文化の基盤を形成しているが、ディケンズ、マクドナルド、ネズビットらによる物語中の子ども観や人生観にヴィクトリア朝の英国らしさはどのように表れているか、またはないか、類話との差異にも目を配りながら検討する。
地域言語文化論演習Ⅱ (英米語圏文化)	芦田川 祐子	20世紀の英語圏の創作フェアリー・テイル(おとぎ話)を読み、担当者による発表をもとに、おとぎ話と文化の関わりについて考察する。テキストはファージョン、パーセルミ、エイキン、ガーナーなどの作品から、受講者の興味に応じて選ぶ。おとぎ話の約束事とそこから逸脱する語りの手法や、作中に表れる価値観に注目し、古典的おとぎ話や日本の昔話とも比較しながら、多様化が進んだ世界において、おとぎ話がどのような地位を占めているかを考えていく。
地域言語文化論特論Ⅲ (華(漢)語圏文化)	加固 理一郎	中国古典文学・漢文学に関する文献を、原典を用い、前近代の注釈を参照して、一字一句をていねいに読む。それによって、その読解力を高め、深く解釈できるようにする。この分野を専攻する者は、これによって研究の基礎的能力を身に付ける。また、関連領域を専攻する者は、自分の研究に益するような題材を見つける。取り上げる文献は、最初の授業で受講者と相談して決める。これまでに取り上げたのは、唐詩・『史記』・『論語』であった。また、必要に応じて漢文訓読の方法や、文学史・思想史などについても講述し、理解を深める。
地域言語文化論演習Ⅲ (華(漢)語圏文化)	阿川 修三	中国近現代の啓蒙思想家王韜(1828～1897)が日本を訪問したときの記録である、『扶桑遊記』を読む。 この旅行記には、当時の日本の学界、政界の著名人士が多く登場し、また長崎、神戸、大阪、京都、東京、日光での見聞が記されている。それらを通して、当時の中国の知識人王韜がどのように文明開化期の日本、当代の日本人を受容したかを考えたい。
地域言語文化特殊研究Ⅰ (言語芸術Ⅰ)	紙 宏行	上代から中世の文学史を概説し、古典文学研究の基礎的方法を身につけるようにする。また、授業担当者の専門である、平安、中世和歌史や歌学あるいは説話文学について、現在の研究状況を紹介し、授業担当者の最近の研究成果を着眼から完成までの過程を含め講義してみたい。
地域言語文化特殊演習Ⅰ (言語芸術Ⅰ)	紙 宏行	平安から中世にかけての文学作品をとりあげ、丹念に読解、鑑賞してゆく。作家・作品については受講者と相談して決めたい。作品を読むための基礎知識や基本的な文献資料の活用方法を身につけ、文学史の流れを理解し、研究史をふまえて、古典文学を読むとはどのようなことなのか、その視点や方法を学んでいきたい。
地域言語文化特殊研究Ⅱ (言語芸術Ⅱ)	磯山 甚一	シェイクスピアの戯曲はその当時の時代状況に引き戻して考えてみると、もともとエリザベス朝の民衆の娯楽として上演されていた。それを知ることによって、戯曲はよりよく理解することが可能である。当時の文化的な相互作用のなかで生み出されたものとしてエリザベス朝の観客の構成、劇場の構造、劇場における上演形態、台本と上演、上演と観客の関係の実際を探ることが必要となる。以上のような問題を実際に戯曲作品を読みながら考えていく。

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
地域言語文化特殊演習Ⅱ (言語芸術Ⅱ)	磯山 甚一	英語文化圏において深く浸透している文化的な伝統のひとつとしてのシェイクスピアの演劇を研究する。シェイクスピアの戯曲は時代の変遷を超越したかのように生き延びて、例えば現在は映画として、時代に即応した形で繰り返して上演され受け入れられつつある。そのようにして古典としての地位を確立するにいたった歴史的経緯を、シェイクスピアの戯曲の特質に求めると同時に、社会的な相互作用の歴史的結果としても考察する。
地域言語文化特殊研究Ⅲ (言語芸術Ⅲ)	白井 啓介	中国近現代における口語芸術の生成と展開を探究するため、口語演劇(話劇)を研究主題とする。20世紀にいたり、中国では伝統的文語形式の文芸から、日常語に近い口語文(白話)文芸へと転換するが、その運動の軌跡と作品を、話劇の台詞を軸に考究する。詩、小説、映画などとの相関から、言語芸術としての特質を探る。
地域言語文化特殊演習Ⅲ (言語芸術Ⅲ)	白井 啓介	地域言語文化特殊研究Ⅲに続き、現代中国における言語芸術の特性を、映画の台詞を中心に実作品に即して究明する。あわせて、歴史的展開を追うことで、演劇と映画の相関、映画と小説の相関などを探る。
地域言語文化特殊研究Ⅳ (日本語学)	鬼山 信行	日本語の従属節について、主節の時制やモダリティといった範疇との位置関係を明らかにし、またそれぞれの位置に応じた従属節の内部構造や意味などを広く見渡す。これによって従属節の作る体系と、従属節の構造上の位置や内部構造との関連を整理する。日本語の従属節の研究は生成文法におけるものを除いて詳細な記述に特化しているが、構造の解明がないまま記述をするため一面で行き過ぎがあり、危険である。本時においては意味と構造のバランスのとれた記述を目指す。
地域言語文化特殊演習Ⅳ (日本語学)	鬼山 信行	日本語文法の特定の分野の重要な論文を読み、批判していく。取り上げる分野は従属節、時制、モダリティ、名詞述語文、名詞修飾の構造などである。
国語科教育特論	坂口 三樹	高等学校国語における漢文作品の教材研究法について学ぶ。作者の意図に沿って作品を過不足なく読解するためには、どのような手順や方法で表現を分析すればよいのか。本講義では、中唐の詩人・白居易、字は楽天の「長恨歌」を題材に、韻文作品、特に唐詩の表現分析の方法を具体的に学ぶ。その際、教科書会社から出版されている複数の指導書を比較・検討しながら、より蓋然性の高い解釈を導くための教材研究の手順や方法について考察する。
国語科教育演習		2017年度非開講
対照言語研究	武田 和恵	複数の言語を比較・対照することを通して、言語間に見られる共通性・普遍性並びに特異性・多様性に関する理解を深めていく。比較言語学・言語類型論・対照言語学・生成文法理論(特に原理とパラメータのアプローチ)での議論・分析方法を概観し検討を加えた後、実際の言語データの分析を行う。英語と日本語の諸現象を主として取り上げるが、必要に応じてその他の言語にも言及する。言語データを基に仮説を立て検証していくことで、より説明力の高い分析を構築していく過程の習得をめざす。
第二言語習得研究Ⅰ	鷲麗美知 ソラナ	The course covers various topics concerning the teaching and learning of vocabulary in the second language, such as selection of target vocabulary, communicating word meaning, strategies for effective vocabulary learning, vocabulary assessment etc. Upon completion of this course, students should have a better understanding of the underlying principles of L2 vocabulary acquisition and be able to make informed choices about vocabulary teaching and testing.
第二言語習得研究Ⅱ	伊藤 隆	本授業では、第2言語習得研究の英語で書かれた文献を輪読する。受講者は、文献を熟読し、その内容を分担して発表したり議論したりすることを求められる。そして、発表と議論を繰り返すことによって、第2言語習得研究の主要な理論や概念への理解を深めることが期待されている。具体的には、年齢、言語適性と動機づけ、言語不安と学習方略、習得順序、学習者言語の可変性、第1言語の役割、インプット、インタラクション、認知的な側面、社会的な側面、明示的・暗示的教授の役割などが議論の対象となる。
日本語学演習Ⅰ	津留崎 由紀子	日本語の文法について学ぶ授業である。母語話者の頭の中には文法体系が存在し、それによって人は正しく文を産出し、理解し、互いに意思を伝達し合うことができる。しかし、母語の文法体系を意識化して説明することは難しい。この授業では、日本語を一言語として客観的にとらえ、考察、整理していくことによって、日本語のしくみを論理的に説明できるようになることを目指す。前期は、品詞論、名詞の格、ヴォイスについて考える。
日本語学演習Ⅱ	津留崎 由紀子	日本語学演習Ⅰに引き続き、日本語の文法について考察、整理する。さらに、用例の収集と分析を通して、日本語のしくみについて深く掘り下げて考える。後期は、テンス、アスペクト、モダリティ、とりたて、複文等を取り上げる。

文学と生活について

私が院に進学したのは私の生活と文学を切り離すことができないためです。私は日文科に在籍していた頃から中島敦の「弟子」という掌編を研究しています。同級生が社会人として活躍する一方で、孔子の思想はこうだが中島はどうだなど、非生産的で情けなく思うことが度々ならずあります。しかし私は現在の研究に納得のいく決着をつけずにはきっと前進できません。文学など所詮娯楽の延長でしかないと考えていますが、それでもしが見ついていないことには命すら危くなる瞬間があります。文学は糞だと叫びたくなることもあります。現在も私の手元にあり、生涯変わらないことと思います。



言語文化研究科 地域言語文化コース2年
川西 圭太 さん

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
英米語学演習Ⅰ	岸田 直子	英語の構造(統語論)に関する基礎的な文法事項についての問題点を再確認し、最新の理論的研究の成果をふまえて、より深く考察する。英語学の研究者にとって、また研究成果を英語教育に応用することを目指す学生にとって、役に立つ内容となることを目指す。資料収集の実践、調査結果を整理し、筋道を立てて発表する訓練も合わせて行う。
英米語学演習Ⅱ	岸田 直子	英米語の構造(統語論)に関わる理論的な諸問題を、実際の現代英語の資料に基づいて考察する。文法研究は、言語事実の分析に基いて一般的な法則を導き出そうとする知的な冒険である。いくつかの文法事項について、学生とともに問題点を整理し、資料を調べ、楽しい冒険旅行に出発したい。
中国語学演習Ⅰ	蔣 垂東	日本の漢字の多くには「訓」と「音」という二通りの読み方がある。「文」を「フミ」と読むように、「訓」は漢字の意味に対応する読み方であるのに対して、「文」を「モン」と読んだり「ブン」と読んだりするのは「音読み」で、中国語の発音を写した読み方である。同じ「音読み」なのに、「天文」の場合は「てんもん」、「文学」の場合は「ぶんがく」と読むのはなぜか。中国語音韻史の知識があれば、こうした違いは中国語の発音の時代的・地域的特徴を反映しているということが分かる。この授業では、日本漢字音とも密接な関係をもつ中国語の中古音を取り上げて考察する。
中国語学演習Ⅱ	蔣 垂東	中国語の中古音は、現代中国語の普通話および漢語諸方言の形成と変遷を理解・研究する上でなくてはならないものであり、呉音と漢音の異同など日本漢字音の実態を明らかにする上においても欠かせないものである。この授業では中古音から普通話への流れを辿りつつ、中国語音韻史の変遷を理解する一方、日本漢字音における中古音の受容の実態を考察することを通して、日本漢字音と中古音、日本漢字音と普通話の対応関係について考察する。
言語教育特論Ⅰ(日本語)	松崎 寛	本特論の目的は、言語教育研究における内容学である音声学の基礎的・発展的知識を身につけることにある。具体的には、現代日本語のリズム、アクセント、イントネーション、子音・母音などの音声的特徴を把握することで、気づかれにくい話しことばの発音の変種に対する観察力・分析力を身につける。音声記号や名称を暗記することに心を砕くのではなく、音声教育への応用を常に考えながら、その背景にある原理を理解するよう心がけてほしい。
言語教育演習Ⅰ(日本語)		2017年度非開講
言語教育特論Ⅱ(英米語)	秋山 朝康	英語教育の分野は広範にわたっているが、特に教材論、学習者論、教授方法論、評価論などの分野が重要である。要は学習者の総合的な英語力(聞く・話す・読む・書く)を、いかに効果的に発達させるかにある。近年の英語教育で強調されているコミュニケーション能力の発達も当然ながら研究の対象になり得る。どの分野を扱うにせよ、この特論では、理論を実践に生かす方法を研究する。詳細は受講生のレベル・興味・ニーズを考慮し話し合いで決める。
言語教育演習Ⅱ(英米語)	秋山 朝康	わが国の外国語教育の中で最も長い歴史を持つ英語教育は、教材論、学習者論、教授方法論、評価論等も分野であり、さらにコミュニケーション能力の育成、異文化理解の視点に立った英語教育も研究の対象にする必要がある。本授業では上記のテーマでリサーチの枠組みを学習し、データの収集方法・分析をする。詳細は受講生のレベル・興味・ニーズを考慮し話し合いで決める。
言語教育特論Ⅲ(中国語)	大瀧 幸子	特論の目的は、日本人学生を対象とする中国語基礎教育あるいは中国人学生を対象とする日本語基礎教育の方法論を研究開発するために必要不可欠な言語基礎理論を理解することにある。本講義では認知意味論と認知文法論が、外国語教育に関してどのような貢献をうるかを理解させる。また、対照言語学における比較基準として、認知言語学の基礎的概念がどのような効果をあげているかを理解させる。

多文化共生の文教

私は中国延辺朝鮮族における日本語教育を研究しています。

最初は、文教大学の研究生として入学し、1年間、専門の研究のみならず、いろいろな授業を受けることによって、幅広い知識を得ることができ、大学院に進学するきっかけになりました。

大学院には多くの外国人留学生が在籍していますが、先生方は一人ひとりの留学生が持つ文化を尊重し、とても行き届いた研究指導で私たちを支えてくださいます。また、大学院の授業では、少人数であるため、授業に関しては、先生や学生同士のインターアクションが多く、よりよい学習環境の中で研究生生活を過ごすことができます。



言語文化研究科 第二言語習得研究コース2年
鄭 英花 さん

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
言語教育演習Ⅲ（中国語）	大瀧 幸子	本演習の目的は、日本人学生を対象とする中国語基礎教育あるいは中国人学生を対象とする日本語基礎教育の方法論を研究開発するために必要不可欠な言語基礎理論を理解することにある。言語教育特論Ⅲで学んだ認知言語学の基礎的な概念の一つ一つについて、学会での評価が高い論文（CNKI、CiNiiから選択）を精読し、文法課題を認知言語学の視点から解決するためのトレーニングをおこなう。
日本語教育特殊研究	川口 良	話し手と聞き手のやりとりで代表されるコミュニケーションにおいて、人間は、対人関係の維持やコミュニケーション上の効率などを考慮しながら言語形式を選択している。そこには相手に対する何らかの配慮が働いており、その「配慮言語行動」は人間のコミュニケーションに普遍的に存在すると考えられる。本講義では、「配慮言語行動」と関連の深い「ボライトネス理論」について学び、その研究手法の立脚点を明らかにする。次に「配慮表現の多様性」に注目する論文を輪読し、動的に「配慮言語行動」を捉える調査分析の手法を学ぶ。
日本語教育特殊演習	川口 良	春学期に学んだ「配慮言語行動」について、各自、興味を持ったテーマを選び、事例研究を行う。事例研究の内容は、調査報告、または、文献調査報告とする。文献調査報告については、春学期に輪読した書籍所収の論文から選んでもよい。どちらの場合も、自身の考察を加えて発表する。それに基づいて全体で討論し、調査方法やその理論化について検討していく。
英米語コミュニケーション特論	リチャード・ローガン	This class will enable students to express themselves in English on a range of topics which may include current political, social and cultural problems in such areas as education, mass culture, the mass media, and the economy. Students are encouraged to raise the issues they are most interested in for their individual research.
英米語コミュニケーション演習	リチャード・ローガン	This class will look at issues in education and society in reference to self-expression, verbal and non-verbal communication, gender roles and social sub-cultures. All discussions will be in English and designed to assist students in their own individual area of research.
日本語文献講読	加納 陸人	本授業は主に留学生を対象にしており、修士論文を作成するための必要な知識や方法、日本語の読解力を養成することを目的としている。 そのためには、まず、論文関連の文献集の方法、手法などを学び、さらに予備資料や関連文献、先行研究の内容を理解し、読み取る力を養っていききたい。
日本語文章表現法	加納 陸人	本授業は主に留学生を対象にしており、修士論文を執筆するための文章表現力を養成することを目的としている。 そのためには、修士論文の前提となる論文で特に用いる表現や正確で論理的な文章の書き方などを学び、文章表現力を養っていききたい。 また執筆の手順、パラグラフの書き方、文献引用の作法、調査・研究成果の記述方法なども学ぶ。